

## 令和5年度（2023年度） 斜里町・羅臼町のヒグマ目撃・対応状況

### 1. 令和5年度（2023年度）のヒグマ目撃件数など

令和5年（2023年）4月1日～同 10月31日分

	斜里町	羅臼町	合計
目撃件数	1884（1329）件	508（195）件	2392（1524）件
対応件数	1058（672）件	589（383）件	1540（1055）件
有害捕獲頭数	55（15）頭	66（18）頭	121（33）頭

※（）内は前年度同期（令和4年（2022年）4月1日～同 10月31日）の数字。  
対応件数には電気柵の維持管理作業等を含む。

### 2. 令和5年度（2023年度）のトピック（2023年10月31日時点）

- ・ 斜里町及び羅臼町合算のメスヒグマの有害捕獲頭数が92頭となり、管理計画における単年度の上限目安（18頭※）を2町だけで大幅に超えた。

※第2期知床半島ヒグマ管理計画におけるメスヒグマの人為死亡の上限目安は、3町（斜里・羅臼・標津）の合算で単年度18頭となっている。2023年度におけるメスの有害捕獲数の合計は、標津町を含めた3町では98頭となっている。

#### 【斜里町】

- ① 人の生活圏（市街地や農地）にヒグマが大量に出没した。農地では、例年よりも早い時期から農作物被害が発生・継続した。ウトロ市街地（ゾーン4）においても、春先の早い時期からヒグマが市街地に侵入する事例が散見されたが、8月下旬以降は連日ヒグマが市街地に侵入し、昼夜問わずヒグマが市街地内を徘徊するなど、人身事故が発生しかねない状況が度々発生した（写真1,2）。
- ② 大量出没を受けて、市街地内でのパトロールや自動撮影カメラによる監視対応を行っているほか、電気柵の新規設置や草刈り等による出没対策も進めているが、市街地や周縁部での出没が続いている状況。
- ③ 9月23日にウトロ東地区の住宅脇の物置がヒグマに破壊され、物置内の果実酒等がヒグマに食害された。その後、電気柵と自動撮影カメラによる現地対策を行ったが、当該個体は出現しなかった。物置はその後撤去された。北大によるDNA解析で新規個体（雄）と判明。

- ④ 9月26日にウトロ地区の宿泊施設付近（ゾーン3）でランニングをしていた一般利用者がヒグマに追いかける事案が発生。
- ⑤ 地域企業と協同でウトロ市街地周縁部のササ刈り・草刈りを実施（4年目）
- ⑥ 日の出地区の漁港にヒグマが侵入する事例や、近隣で釣り人の釣果を繰り返し奪う事例が発生し、人身事故の危険性が高まったため、9月24日以降は立入禁止措置（立入自粛要請）を行った。
- ⑦ ヒグマの大量出没が発生し、10月末までに55頭を有害捕獲した。斜里町における過去16年間の捕獲頭数の最高値は2015年度の33頭であり、それを大きく上回る記録となった。

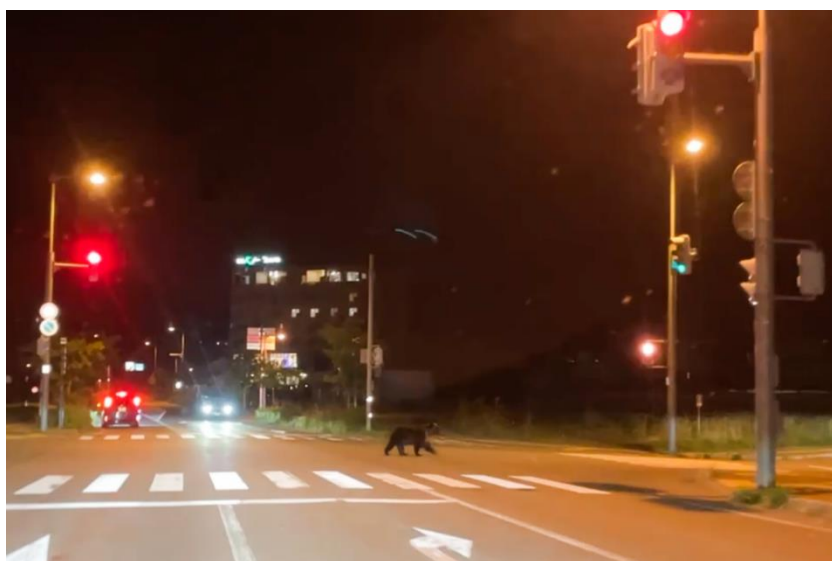


写真1. 夜間にウトロ市街地を徘徊するヒグマ（2023年9月4日一般提供）

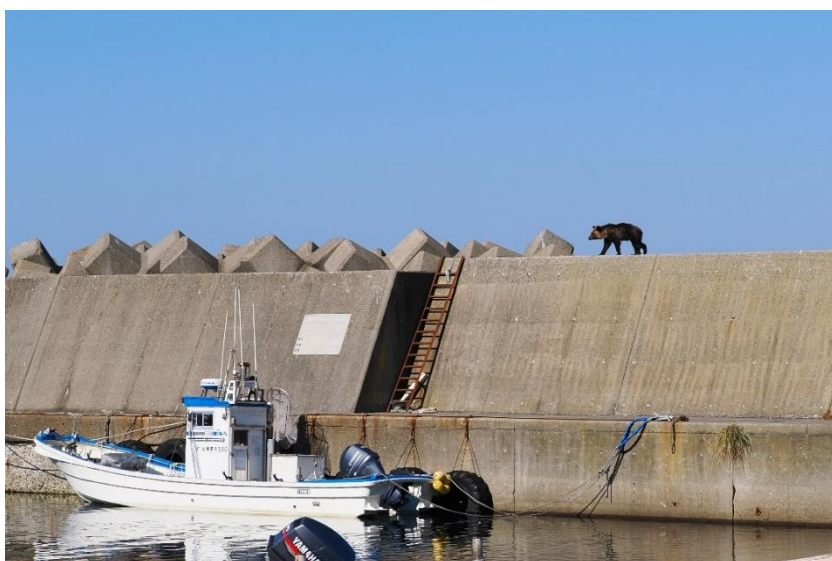


写真2. ウトロ漁港に侵入した個体（2023年10月26日）

## 【羅臼町】

- ① 各町内会と共同で地元建設会社の協力も得て、主要な場所の草刈りを実施（4年目）。
- ② 7月20日、知床岬の羅臼町側で人に付きまとうヒグマが出現し、7月27日の現場搜索の結果、当該個体を確認し有害捕獲した。
- ③ 9月26日未明、カモイウンベ付近において、漁業者が乗っていた軽トラックが大型のヒグマに攻撃され、ヘッドライトやバンパーを損傷する被害を受けた。
- ④ 9月に羅臼町内各所でヒグマによるごみの被害が複数発生した。いずれの件も老朽化したごみステーションはじめ、屋外に設置されたストッカー（鍵なし）やフレコンバッグ、ポリバケツに入れられていたゴミが被害に遭っており、不適切なゴミの管理が原因であった。
- ⑤ 10月中旬、特定の水産加工場の残滓に餌付き、夜間に出没を繰り返すヒグマが2頭現れた。これらのヒグマはともに箱わなで捕獲された。また干し魚を狙ったヒグマが倉庫等の屋内に侵入した事案が海岸町と峯浜町で発生した。前者は箱わなで捕獲されたが、後者は10月31日現在、捕獲に至っていない。
- ⑥ 10月に入り、住宅地内で羅網したシカをヒグマが利用し土饅頭を作った案件が2件発生した。ヒグマはいずれも有害捕獲された。シカが羅網した原因は、防鹿ネットに目の粗い網が使用されていたことであった（写真3）。
- ⑧ 10月16日に幌萌町で、30日に岬町で車両が走行中にヒグマと接触する事故が2件起きた。幌萌町は23時ごろ水産加工場で残滓の食害があった（⑤の事案）付近の国道上だった。岬町は21時ごろ知円別トンネルを茂瀬刈方向に抜けてすぐの道道上でヒグマと接触した（翌朝に有害捕獲）。
- ⑨ 10月27日 岬町にて深夜に昆布作業のため外に出たところ、暗闇の中にいたヒグマが突進してきたため倉庫に逃げ込むという事案が発生した。
- ⑩ ヒグマの大量出沒が発生し、10月末までに66頭を有害捕獲した。羅臼町における過去16年間の捕獲頭数の最高値は2012年度の45頭であり、それを大きく上回る記録となった。



写真3：岬町のコミュニティセンター裏のネット付近で滞留するヒグマ（左）と、そばにあった土饅頭（右）

【国立公園内】

- ① 4月21日に幌別地区の開拓小屋コースで利用者がヒグマに追跡される事案が発生。利用者はクマスプレーを噴射し、ヒグマの顔に直撃したにも関わらず、ヒグマは追跡を続けたため、行動段階3と判定された。現地調査を行い、その後パトロールも継続的に実施したが、当該個体の再発見には至らなかった。
- ② 斜里町の国道334号プユニ岬付近の道路沿線において、4月9日に車両ボンネットに手を掛ける亜成獣サイズのヒグマが確認された。また、5月30日には知床横断道路で車両を追いかける亜成獣サイズのヒグマが確認され、6月5日には知床横断道路の羅臼町側でも車両に手をかける亜成獣サイズの見撃情報が寄せられた。外見的特徴やその行動から、いずれのヒグマも昨年度に知床横断道路で頻繁に車両に手を掛ける行動をとった問題個体と同一の可能性が高いと考えられた。その後、6月8日に知床横断道路の羅臼側で対策員が乗車している車両に向かって接近するヒグマが確認され、その特徴から当該個体の可能性が高いと判断され、捕殺された。その後、同様の事例は発生していない。
- ③ 幌別地区のフレペの滝遊歩道では、7月から8月にかけてヒグマが歩道沿いのヤマゲワやアリに定着する状況が確認されたため、長期間の閉鎖措置がとられた。知床五湖の地上遊歩道では8月以降も継続的にヒグマが見撃されている。
- ④ 国立公園内でのヒグマへの接近・つきまといは公園法改正後も例年通り発生しているが、改正公園法による行為規制を明示した改定公園管理計画が10月より施行開始。

【知床のヒグマに関する普及啓発・情報発信サイト】



知床のひぐま  
(HP)



BearSafetyShiretoko  
(Facebook)



Bear Safety Shiretoko  
(X:旧 Twitter)



bear\_safety  
shiretoko  
(Instagram)